



新田  
功陸

柱

傳

~ 13  
3558  
1





門 へ 13  
號 3558  
卷 1

狂訓亭主人 松亭主人 合作 初輯全五冊

# 新田 功臣 柱石 傳

歌川國直 畫圖 南陽堂梓  
歌川國芳

早稲田大學圖書  
昭和34.6.3  
藏



柱石傳序



柱石傳序  
柱石もく正史を萬世の準繩治世の教規と  
大事なる處の大疑を決するは法ありて  
徳あり留者を襄く勸え罪あるものを  
懲らざるはゆゑなり其文直く其事核  
あり美を古虚をび悪を信するは實明  
とて空言のはなわらふことありて

柱石傳の序

三冊



懼くは控へたるのしよま。但裸し史小説亦  
本筋に野情を述るる草紙の如く書賣相  
はれしやま。上梓きつ。一日書林の須京堂  
僕が狂訓草紙并換んぶの雜紙何とらん  
猶嗚呼つらつら。古人曾名の功拙技  
考うる節も我々剛留の傍若無人を。安  
堵と笑ひぬ蓋士の宿舎待時子方と問里小

因阪も庸人孺子も皆是も侮さず張  
氏の嫂年一禮をまじり買臣が其妻并  
棄るものびる来一旦高車駟馬を  
しる旗籠を導来騎卒凌子擁し  
道狭夾む人相與年一肩を驛迹張累  
膽望洛嗟とあつ年一至る庸夫愚婦の  
奔まざる駭乎汗し。羞愧俯伏するがう

主一〇傳の耳末二一

ロノ二

三用入の二二



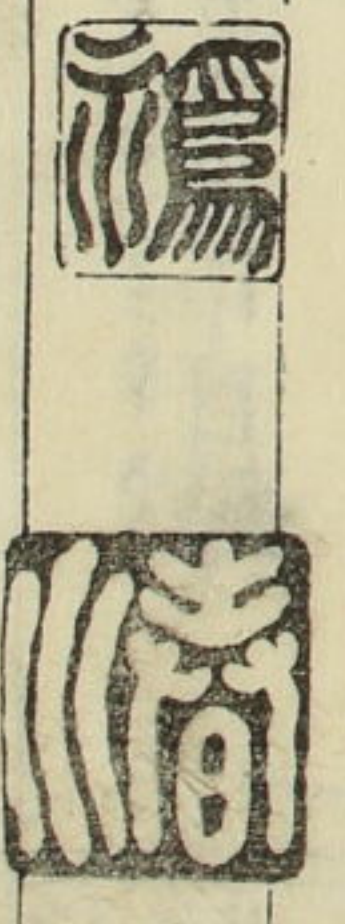
衆を車塵馬足京間を悔此條をたぶ  
 る庸人を古御子錦衣の帯を  
 榮枯得失の天命をたぶるも  
 豈人力の業なるや其業の  
 も忠臣孝子は志修身を  
 温袍の綾羅をまとうつ  
 薄命の忠良賢士列傳

童蒙の目覺し  
 千時天保四年

千時天保四年

歳次己孟辰日

金麓山人誌



生...



新田 柱石傳第壹輯全五本卷中目錄  
功臣

○卷之壹

第一回 真柴郷内海匿賢

第二回 告別太郎赴学校

○卷之貳

第三回 太郎數馬說意中

第四回 重義太郎去学校

○卷之叁

第五回 貪欲匹夫釀災害

第六回 棄恩王垂通恋情

○卷之肆

第七回 強賊乱入鑿衆人

第八回 逢會太郎語往事

○卷之伍

第九回 恃勇英士搏山岳

第十回 逢國司王垂得幸

通計十條總標目終







容貌最美ある一女子  
齊力ハ巴班額ガ跡と慕ヒ  
才ハ赤染藤式部等ヨ  
愧ぢるるむ嗟長同胞ガ  
功績後世不朽の美談と  
謂フ

他日遂逃

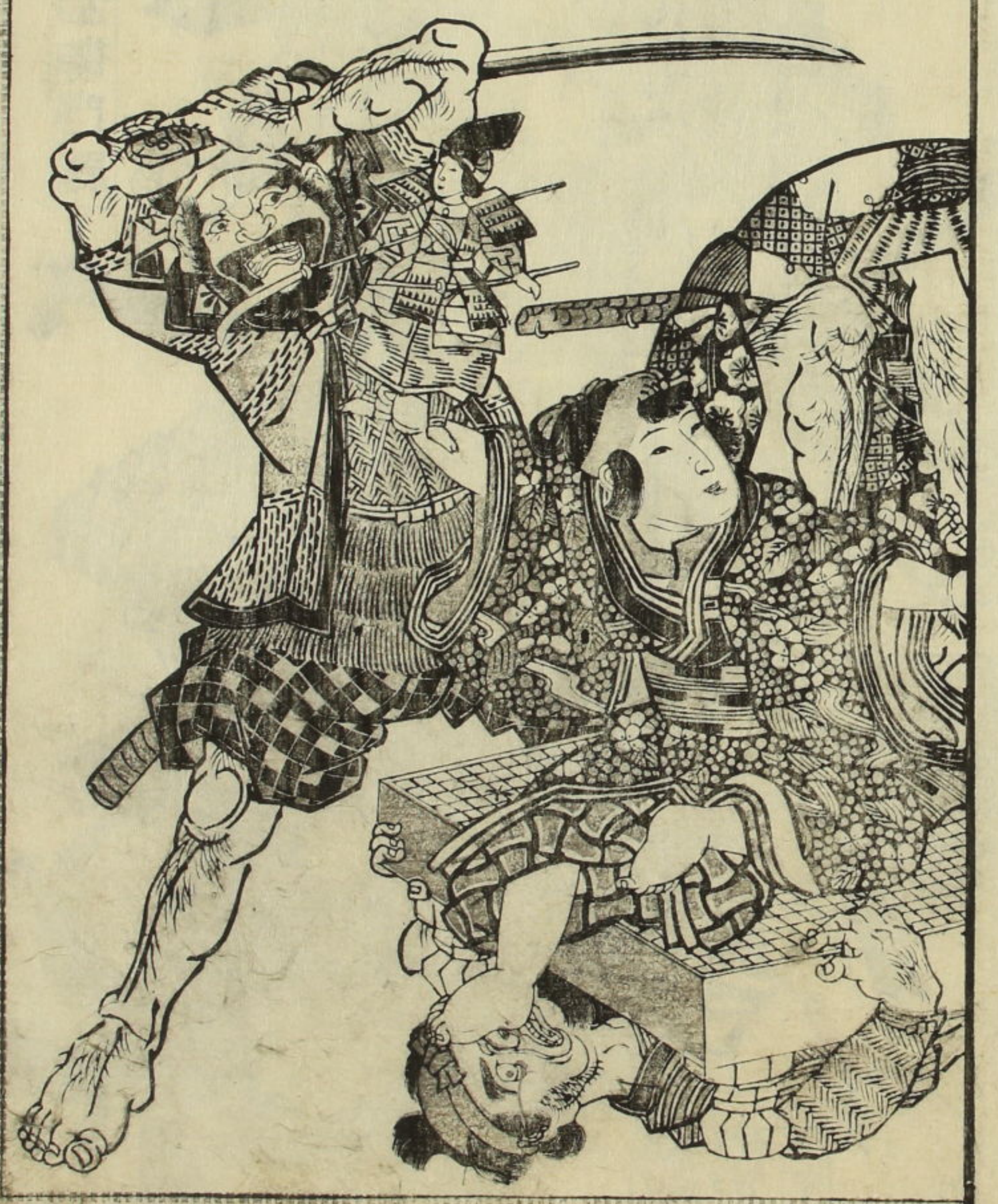
秦虎

暮年

初謁



漢 龍 顔







栗生左衛門尉

伊藤守賀塚

頂庄之會

鴻門寄

情於

一座之客

漢祖之歸

沛郡傷思

於四方

之風



畑六郎左衛門尉

且新左衛門尉

弘川用五画

主古傳卷一



以 扇 尾 冷 年  
 而 戒 之 下  
 今 戰 功 未

一品兵部卿  
 護良親王  
 四海の逆徒を  
 鎮めんが法  
 衣を脱て六具  
 に換一旦その  
 功ありとも  
 尤龍の悔榮  
 彼の上も及  
 び名のみ未  
 世の口碑小  
 傳あ嗚呼天  
 命あうる命  
 哉



世の口碑小傳

命あうる命



惟悲不被尋  
山川乘載無  
後勳業為勳

至世傾侵潤之  
護良



古云伯夷者溢矣桺下惠者不恭也矣溢  
與不恭則齊過與不及同矣兵部卿一品  
護良親王者頗有王佐之才建武亂尊氏  
直義威振海內帝道墮於地及此時而准  
后內有驪姬之奸而外有尊氏之侮及此  
時而護良親王不循其德徒以勇猛英傑  
爲勤不施仁直義而以奢侈驕慢爲行矣  
嗟乎其表顯三觀佛乘之意而欺尊氏等  
之侮人而裏以正成義貞等之至忠則何

醜准后之難矣至於禍既及其身漸有此  
文云臣獨無尺鉄之資搖義兵陞險溢之  
中窺敵軍故逆徒專以殺爲根元之間四  
海下法萬戶以贖誠是命雖在于天奈何  
身無措処登終日卧深山幽谷石岩數苔  
夜通宵出荒村遠里跣足踏霜撫龍鬚消  
魂踐帝尾冷胸幾千萬矣遂運策於帷幄  
之中亡敵於鉄鉞之下龍駕方還於都鳳  
曆未則天非忍微臣之忠功爲誰乎哉而



今戰功未立罪責忽來風聞其科條一非  
吾所犯虛說所起惟悲不被尋究仰而將  
訴干天日月不照不孝之極俯而將哭于  
地山川無戴無禮之臣父子義絕軋坤共  
棄何愁如之乎又不晚乎爰大和志貴昆  
沙門堂什寶有一消息一品兵部卿護良  
親王自筆云爾墨蹟飛動如板山筆端奔  
走凌雲惜沒滅而模寫焉以附柱石傳之  
看云

新田 柱石傳初輯卷第一

第一回 眞柴卿内海匿賢

唐堯虞舜の性昔の茅茨不剪柴椽不削徳澤禽獸魚虫に阻公の國小  
訟訴の声をさるる野に麟鳳見えず。あはよ本朝文保の昔時京都の  
後位のおんあり。春宮の後宇多の院弟の皇子尊治親王を奉まつる位  
不即の小光帝の花園の院と号し。まご教原の院と号す。あはれおけ君や位よ  
即ちの肖少仁慈の心深く外少萬機の政を布す。近代の明君當世の  
賢王にましく公言の遠くは延喜天曆の迹をまひ近くは後藤原延久の例に任せ  
記録所へ上御あつて直に祈陣と決り。徳澤一天を覆ひ恩惠四海に被り

注古傳卷一



徳らうと徒靡うと與へ思ひ着て善と賞のひく六儒佛の宏才皆そのふ  
 望を達し誠ふこ天に受る明君地ふ奉ずる聖主のや上下その化ふ  
 務り遠近その徳と作さるるなり此をた鎌倉に北條高時執權の職と  
 務りその才控忽りて頗る柔謹るることと始めに北條隆興守宗宣を相  
 摸ち熱時と兩人執權連署いこす且宗宣卒去の後に熱時独り  
 發められ且秋田城外時頭長崎入道山喜貞時の遺言によりて高時を補  
 佐さるふ至わが送ふその威と争をひく大小の式自監吹し賄ふ賤く私欲と  
 違ふやて修らざる好む萬端往昔少く修らざるさるるれと救への恩澤名お  
 の餘光にふる今るて天下安穩ありさるるお獲の国足柄の片傍真柴の  
 郷といはれあり花落ふまきる鎌倉も程ちるれと此のうら連を城々へ於

山腹るれは往々人も稀ふといふも淋しき一邑あり花落のこまのいふか  
 さるふ淡人多く往りの少る世の花美るる却て知らざるは實素  
 に温順る人丈多く住居なりその中少く年園て里の推さるるを  
 集會會学問の品の師範とてかきひく世とるん受るる内海跡藤吾  
 としりるる其性上ふ人に勝る軍学兵書いふさるる漢の倭の  
 博識にていふるあまも漢士るれあまも世のいふるあまも放言の人  
 むも用ひらるるさるる俸禄をも賜りててかる山家よりありおた  
 愕々として世を送るるその以あつる此人や生をいふるにあらはれ共  
 片足寒く屈伸の自在るるものにあらはれ寒暑温涼のとりくに  
 苦痛いふく強りたせふま交らんて思ひくも退隱しるるれかて



源藤吾二人の児あり。見勝太弟ハ人性篤くまゝして智慮多し。怪力  
 おもく衆に超え多特母をた童にあり。源藤吾はあけくまも勝  
 太弟をるん愛し。あられ此家と再母をばさる此推見ふこそあれ  
 と年あつた頃よりして四書五經をばさる書と口誦さるに氣  
 億して一回家へ終ふ忘れども七八歳の頃よりして己が傍で招き  
 おたもるふひささるふ其才氣頗る平生の十五六ある。老も増して  
 又ふれはむ益々電愛して年月を修む。その年元應元年に  
 十三歳とぞるに。是より四年壽正和五年の秋九月一個の女  
 子と儲り。今かく流浪の身とるにて。倅さかひき見の産る  
 是より三年間て。季の子其愛初子増るといふ源藤吾も

源藤家も熱心あつて。目ぞされぬ。設けぬ。侍る。死太弟ハ  
 ひと健やかに。親の慈目知らねども。此知等には亦類ひる。さし  
 さまふる。あつた。渠の。むく。侍ら。り。な。と。あつた。り。に。不。憶。懐。胎。を  
 し。始。り。り。嗟。る。く。ても。あれ。今。ま。ら。や。と。あつた。の。外。ま。こ。二。個。の。女。子。を  
 ぶ。物。怪。の。儼。伴。詞。敵。ふる。は。す。も。太。弟。も。右。々。力。強。く。殊。々。容  
 貌。も。人。並。と。い。ふ。る。推。見。失。る。せ。そ。と。送。り。熱。心。の。七。夜。に。は。第。一。を。と  
 ろ。ら。ま。わ。き。心。げ。ら。の。赤。の。飯。島。の。蕪。蓼。の。葉。ハ。將。聞。と。源。藤。吾。が  
 一。切。の。切。割。は。此。原。々。佳。儀。を。祝。む。日。と。修。む。と。い。ふ。その。源。藤。が  
 免。不。か。産。後。犯。え。ね。て。乳。さ。も。出。れ。ば。源。藤。吾。ハ。辛。く。と。ま。り。第。一。等  
 に。侍。り。近。き。傍。で。乳。を。推。き。見。て。養。育。す。る。ゆ。に。源。藤。家。が。着。病



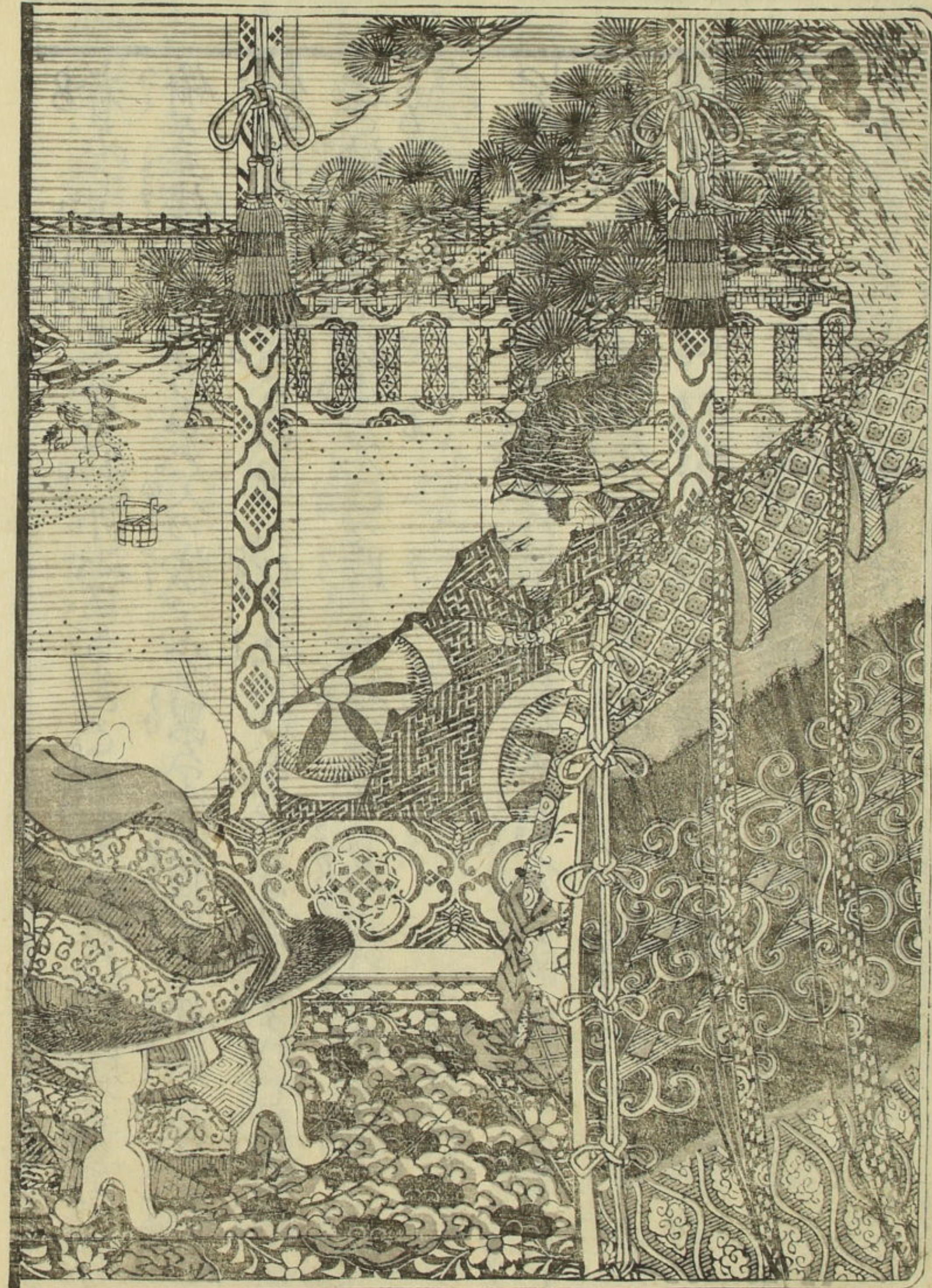
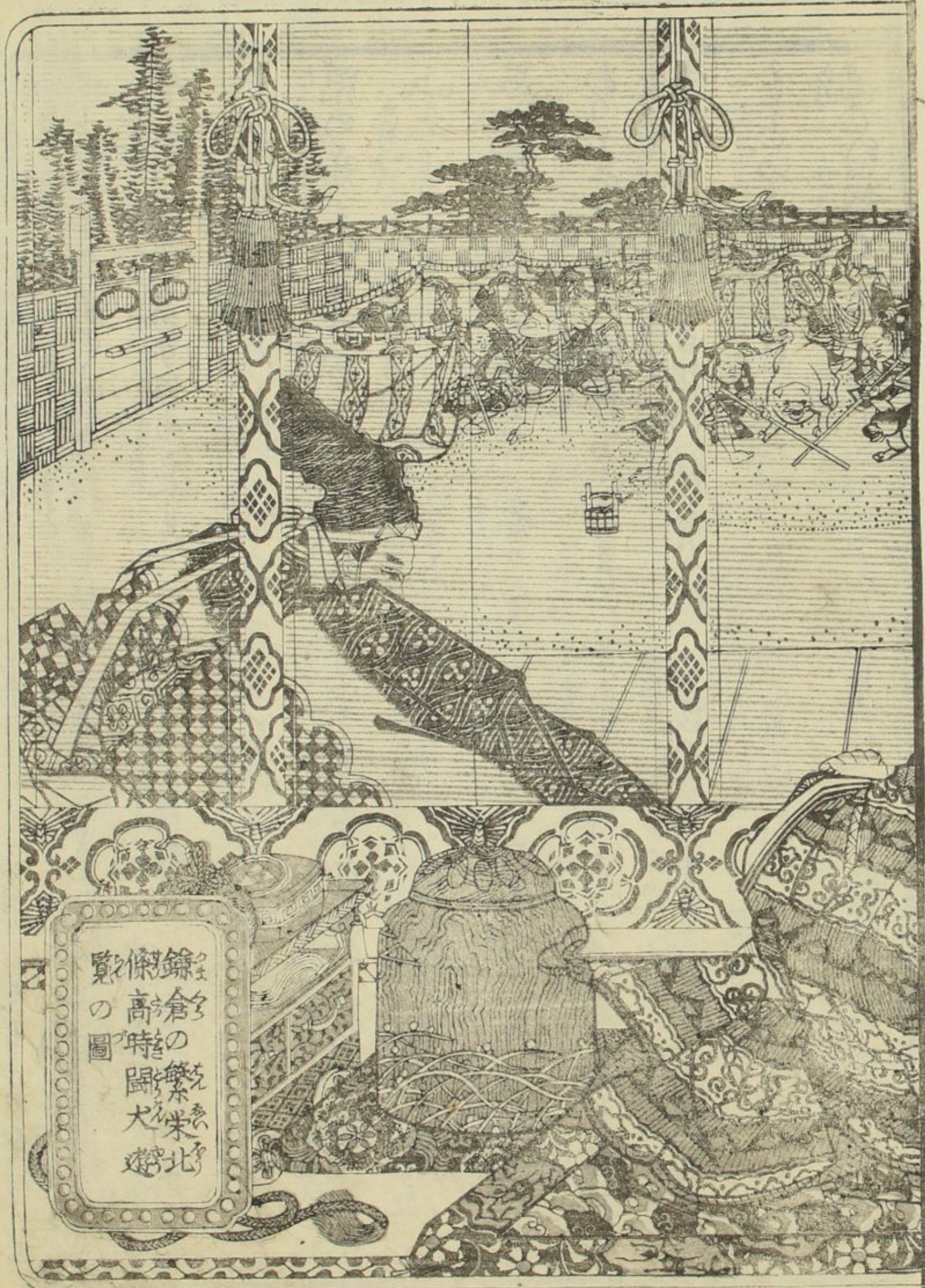
まらく重きり。かくて此見といふなり。養ふべきとて人をも。まご  
 鴉子にて乳る。何と便しと育てるんと。免さる左なる業。佐一。つ  
 た。一個の婿ハ常陸の国府より一里なる。服道なる高原の郷士  
 に嫁し。そのまゝ人より茨木兵衛ハ三年もと嚮に辞せぬと風ふ  
 せらる。変われど国と隔ててその右ハ。後て音信贈答る。安否を  
 せむも。多きる。れど。今る。公け。世不活生と。吾家よりい少く  
 富し。殊。あ。一子も。る。な。より。婿に。特。て。育。ま。合。ふ。却。て。こ。こ。も  
 心易く。彼方も。一個の子と。儲。て。多く。然。れ。ゆ。へ。新。太。郎。と。謀。共。に。  
 育。ま。欲。る。ま。ど。ま。あ。着。病。と。い。ふ。せ。ん。み。足。伸。し。て。人。並。る。る。ま。  
 詮。方。あり。ゆ。と。と。是。と。是。も。露。の。路。も。その。安。否。と。さ。知。れ。ま。た。

疎遠に過し。のるれ。今。さ。り。小。心。億。して。い。の。秀。便。は。り。と。人。と。も。  
 年来。疎。くる。ま。り。吾。身。の上。と。取。ま。る。る。き。に。懈。怠。の。度。に。あ。り。  
 ね。と。今。か。く。危。急。の。時。に。臨。ん。だ。か。ら。う。の。と。特。に。な。る。と。否。ま。ん。と。心  
 と。決。して。か。つ。て。渾。家。に。も。う。ち。語。ら。ぬ。に。渾。家。ハ。苦。痛。に。身。と。責。て。果。敢  
 果。敢。あ。り。回。答。ひ。れ。ど。免。も。角。の。と。や。に。い。ろ。さ。び。と。い。ひ。く。ち。う。た  
 邊。の。人。と。雇。ひ。の。書。翰。と。齎。し。常。陸。の。国。も。高。原。の。婿。方。へ。遣  
 へ。り。か。つ。て。日。頃。と。往。る。ふ。つ。け。渾。家。ハ。や。ま。ら。く。惱。ま。は。り。露。命。且。暮  
 に。迫。れ。ぬ。豫。て。み。み。設。け。け。り。も。今。さ。り。の。か。ら。に。学。ぶ。く。哀。傷  
 か。ら。こ。る。と。い。ふ。と。函。官。發。者。の。妙。術。さ。つ。た。果。ね。ま。は。詮。方。も。只  
 枕。方。不。跪。ま。居。る。の。ま。か。る。ふ。外。の。方。より。檀。那。ま。た。今。歸。こ。い。高











頤よ遠くのあの山里へ詰まりひい。春のさよふころのさよふも霜夜も集  
 鳴虫の音も。や彼の良里へ聞えたり。良わつて病人の財は杖や  
 杖と起上りて傍に臥す吾も指さしてかくて事さふ故さ  
 児の産まで苦勞を増さるる子宝るんぞ世間の人のさうの萬の  
 みえりうぶる人の上なり。かゝる貧苦のそ中より如何なる宗の禍と  
 愚痴ゆめゆめはつらう。妾が命は且暮る。迫る。なと妙刺良某の  
 わりとして命を絶つらん。まゝに黄泉の鬼とるり。往來ふありても  
 生中よ此児が菩提の伴なり。亡後のまの思のみ。よれふ特とさ  
 きた。いふふ達の苦勞ひいて公病くる宣ひて人の病の器とて時  
 把ての病はかゝる世間のさうのさう。善と勧めは飲まひてさ

も早く快く。さうさく欲とさゆひ人裡とのならぬ産後の悩  
 ん血うらして幾らさう。心と静めて療養せむ。四十か八間の  
 あるがとのもちてると験さるる老方ののさう着病はあつてさ  
 効のあるものと。励まされてるを笑ひ妾が病ひ今まらに急  
 ぎのさうわと此児とさ育てさるるのさう何れ世ふあひ  
 おこと仿らん初子ふまれ季子にや。何れをなせとさ。後とらさ  
 勝太郎ハ。さう十もさるるのあて。殊に命の傍に居る母が  
 こそ人あはるりてん。雅児のそ死てゆ。黄泉の障さうなさるる  
 いひの此方をさうして勝太郎とさ。お母が傍へ坐とさ。さう  
 思つ母あが。自らして傳ふ。嘆かす。喃母は。高原の娘とさ。から

注五傳卷一

二







時<sup>あ</sup>く<sup>と</sup>た<sup>と</sup>復<sup>と</sup>も<sup>と</sup>あ<sup>と</sup>れ<sup>と</sup>ど<sup>と</sup>。遊<sup>あ</sup>近<sup>と</sup>と<sup>と</sup>く<sup>と</sup>十<sup>と</sup>年<sup>と</sup>餘<sup>と</sup>と<sup>と</sup>。清<sup>と</sup>来<sup>と</sup>の<sup>と</sup>ひ<sup>と</sup>。賓<sup>と</sup>客<sup>と</sup>に<sup>と</sup>こ<sup>と</sup>が<sup>と</sup>勝<sup>と</sup>と<sup>と</sup>う<sup>と</sup>ち<sup>と</sup>ひ<sup>と</sup>で<sup>と</sup>。い<sup>と</sup>ち<sup>と</sup>が<sup>と</sup>様<sup>と</sup>さ<sup>と</sup>く<sup>と</sup>必<sup>と</sup>ず<sup>と</sup>あ<sup>と</sup>り<sup>と</sup>。中<sup>と</sup>く<sup>と</sup>勞<sup>と</sup>を<sup>と</sup>休<sup>と</sup>ら<sup>と</sup>ひ<sup>と</sup>ぬ<sup>と</sup>ま<sup>と</sup>人<sup>と</sup>の<sup>と</sup>心<sup>と</sup>を<sup>と</sup>無<sup>と</sup>く<sup>と</sup>する<sup>と</sup>。ゆ<sup>と</sup>ひ<sup>と</sup>を<sup>と</sup>去<sup>と</sup>来<sup>と</sup>と<sup>と</sup>す<sup>と</sup>。彼<sup>と</sup>方<sup>と</sup>を<sup>と</sup>む<sup>と</sup>ま<sup>と</sup>く<sup>と</sup>伏<sup>と</sup>く<sup>と</sup>。い<sup>と</sup>ち<sup>と</sup>が<sup>と</sup>蓬<sup>と</sup>の<sup>と</sup>蒲<sup>と</sup>團<sup>と</sup>の<sup>と</sup>勝<sup>と</sup>で<sup>と</sup>載<sup>と</sup>せ<sup>と</sup>。他<sup>と</sup>人<sup>と</sup>が<sup>と</sup>ま<sup>と</sup>く<sup>と</sup>宜<sup>と</sup>る<sup>と</sup>患<sup>と</sup>を<sup>と</sup>俱<sup>と</sup>よ<sup>と</sup>す<sup>と</sup>る<sup>と</sup>者<sup>と</sup>は<sup>と</sup>。これ<sup>と</sup>親<sup>と</sup>族<sup>と</sup>の<sup>と</sup>る<sup>と</sup>入<sup>と</sup>る<sup>と</sup>で<sup>と</sup>。ま<sup>と</sup>の<sup>と</sup>心<sup>と</sup>を<sup>と</sup>遣<sup>と</sup>ひ<sup>と</sup>て<sup>と</sup>六<sup>と</sup>狂<sup>と</sup>と<sup>と</sup>病<sup>と</sup>の<sup>と</sup>障<sup>と</sup>と<sup>と</sup>る<sup>と</sup>ん<sup>と</sup>。脊<sup>と</sup>中<sup>と</sup>ま<sup>と</sup>く<sup>と</sup>ら<sup>と</sup>ん<sup>と</sup>腰<sup>と</sup>を<sup>と</sup>搦<sup>と</sup>んと<sup>と</sup>ひ<sup>と</sup>で<sup>と</sup>か<sup>と</sup>ま<sup>と</sup>ぐ<sup>と</sup>勿<sup>と</sup>体<sup>と</sup>る<sup>と</sup>。任<sup>と</sup>知<sup>と</sup>も<sup>と</sup>痛<sup>と</sup>く<sup>と</sup>。一<sup>と</sup>竹<sup>と</sup>と<sup>と</sup>ら<sup>と</sup>と<sup>と</sup>ち<sup>と</sup>捨<sup>と</sup>た<sup>と</sup>ま<sup>と</sup>れ<sup>と</sup>と<sup>と</sup>固<sup>と</sup>く<sup>と</sup>辞<sup>と</sup>。只<sup>と</sup>管<sup>と</sup>酒<sup>と</sup>を<sup>と</sup>給<sup>と</sup>ふ<sup>と</sup>人<sup>と</sup>と<sup>と</sup>勸<sup>と</sup>めて<sup>と</sup>も<sup>と</sup>。と<sup>と</sup>彼<sup>と</sup>知<sup>と</sup>へ<sup>と</sup>ゆ<sup>と</sup>わ<sup>と</sup>れ<sup>と</sup>。渾<sup>と</sup>家<sup>と</sup>ハ<sup>と</sup>再<sup>と</sup>び<sup>と</sup>頭<sup>と</sup>を<sup>と</sup>擡<sup>と</sup>げ<sup>と</sup>。傍<sup>と</sup>に<sup>と</sup>伏<sup>と</sup>せ<sup>と</sup>。推<sup>と</sup>見<sup>と</sup>の<sup>と</sup>白<sup>と</sup>も<sup>と</sup>あ<sup>と</sup>ひ<sup>と</sup>。衣<sup>と</sup>を<sup>と</sup>除<sup>と</sup>け<sup>と</sup>。此<sup>と</sup>見<sup>と</sup>を<sup>と</sup>伴<sup>と</sup>る<sup>と</sup>ひ<sup>と</sup>。養<sup>と</sup>る<sup>と</sup>ひ<sup>と</sup>育<sup>と</sup>む<sup>と</sup>る<sup>と</sup>は<sup>と</sup>長<sup>と</sup>と<sup>と</sup>お<sup>と</sup>れ<sup>と</sup>。身<sup>と</sup>の<sup>と</sup>預<sup>と</sup>め<sup>と</sup>ら<sup>と</sup>せ<sup>と</sup>。此<sup>と</sup>見<sup>と</sup>を<sup>と</sup>成<sup>と</sup>長<sup>と</sup>る<sup>と</sup>ん<sup>と</sup>と<sup>と</sup>死<sup>と</sup>す<sup>と</sup>。給<sup>と</sup>ふ<sup>と</sup>さ<sup>と</sup>う<sup>と</sup>お<sup>と</sup>ら<sup>と</sup>す<sup>と</sup>。大<sup>と</sup>丈<sup>と</sup>

七八分の弥陀の尊像外あり産毛と胎の緒を包き一紙を吾はして。覆るるらに衣附し。その誕生の日時を記す。蓬のこまをうらひ抱きて。いづれも是ハ山見が生涯肌離さざるものなること。且その弥陀の尊像にハ所謂ありやと問ふ。其答。其像ハ妾が命を為良ぬ。一。北條家の仕え。と死君より賜る所中。て戦ひに臨む。頭髪は結こまゆらに危き。血路を切開きて。此を道ねる。夏ま交す。つくその元と素ぬ。むが慈徳を造りぬ。こら。女ハ心若く。積む。成佛。がたののる。むが。女ハ心若く。積む。佛の像。と昔。そんハ忌々。一。ま。あ。故。よ。の。見。は。深。る。り。と。い。の。息。も。危。々。に。なる。俾。切。る。ん。ま。る。る。れ。が。蓬。の。暖。や。と。網。を。り。と。

主 一 二 三 四 五 六 七 八 九 十







のころ北條家の故頼朝卿の出頭るれど姓ハ平氏るものと今も零  
 落しつるも源家の統るるも筋目るも縁のあり姓を穢し鳴呼さ  
 りぬまき主あつてとるも子のあり家のあり心苦しくあひたり  
 去りて永正四年越後守頭時金澤赤名寺のうちに文庫とて  
 和漢の羣書を集めらる内外兩典諸史百家西陸神歌の書ら  
 小漏るるれどもとるもゆめゆめ書み金澤文庫の四箇の文字と  
 彫刻して印し格らる儒書と黒印佛書と朱印とぞあはれ  
 かくて金澤学校と唱へ貴賤道俗の差別るる志ある輩こそ  
 集りて文と書みあはれ唐山及弟のあひあつて遠近より幼  
 童少年の学生等今も後むぞ集會するもよふ跡藤吾あひま

鵬太郎が生質尋常るものといふまに二年陳人とあつて先祖の家  
 とも真まごの文書類ありとてかろ山家お育りて能事あり  
 知らずして賤き業のこころ學あへて現ぬ金沢の学校とて貴とて  
 賤とてその志ある者へ頼のよよと許り成稟才と成るる志と  
 遅るるるの教場あま一日もとるも徳河へ追ひ初強さすも如  
 愈つて子母が居宅と後し置るも思ひ合さずの在るるむと  
 決して太郎を招きて你ハ人性温順よとて吾見あつて過る世の  
 者鳥が鷹の子を産したるのあはれ人の日夜お勉強して文學を  
 する物の要しとまごころ如何といふも文學の遠くは古昔の治亂興  
 廢故人の得失賢愚を志す近くる今日格くの行るる所の忠信孝悌















吾世に至りては、倭人の世に、二十五年の往昔、弱官の如くして、  
 ありては、名を揚せしむるも、えりては、思ふも、静  
 溢と根と、あつたれども、時は、遇ぬと、歎き、うら、故、右、幕、下、の、内、第  
 三河守、乾、頼、昌、の、末、葉、ひて、在、り、る、吉、見、の、孫、太、郎、美、世、ね、の、内、の  
 東に、伴、細、て、世、を、背、き、ひ、か、り、得、源、家、の、嫡、流、ひて、平、氏、が、北  
 條、家、が、時、り、く、さ、る、と、意、恨、も、あ、り、て、天、下、と、再、び、源、氏、の、世、と、さ、る、  
 家、運、と、四、海、に、開、く、と、さ、る、と、あ、り、ま、さ、る、時、々、は、旧、好、の、士、と、落、ち、り、  
 さ、れ、ど、漫、よ、口、外、と、さ、る、と、さ、る、あ、り、わ、れ、死、生、不、知、の、溢、者、と、思、ふ、と、さ、る、  
 と、さ、る、と、あ、り、ま、さ、る、秘、る、と、さ、る、内、中、国、西、国、ま、で、と、さ、る、と、さ、る、  
 わ、れ、ら、し、美、兵、と、揚、る、と、さ、る、と、さ、る、馳、走、と、さ、る、約、と、固、り、時、の、く、ら、と、さ、る、

小吾も累代源氏に属す。家筋ありと、一味の  
 うら、落、ち、り、と、さ、る、と、さ、る、と、さ、る、と、さ、る、と、さ、る、と、さ、る、と、さ、る、  
 去、来、と、い、ふ、と、打、ま、ん、と、堅、吧、と、飲、で、待、ら、る、に、鎌、倉、の、さ、る、と、さ、る、  
 と、さ、る、一、味、の、族、と、さ、る、と、さ、る、と、さ、る、と、さ、る、と、さ、る、と、さ、る、と、さ、る、  
 悪、事、十、里、と、走、る、の、る、と、さ、る、と、さ、る、と、さ、る、と、さ、る、と、さ、る、と、さ、る、  
 向、ら、り、と、さ、る、と、さ、る、と、さ、る、と、さ、る、と、さ、る、と、さ、る、と、さ、る、  
 雑、兵、等、叛、逆、無、道、の、吉、見、美、世、傳、り、受、り、と、さ、る、と、さ、る、と、さ、る、  
 大、事、八、頭、と、さ、る、と、さ、る、と、さ、る、と、さ、る、と、さ、る、と、さ、る、と、さ、る、  
 是、も、走、登、り、と、さ、る、と、さ、る、と、さ、る、と、さ、る、と、さ、る、と、さ、る、と、さ、る、  
 その、身、疾、石、と、さ、る、と、さ、る、と、さ、る、と、さ、る、と、さ、る、と、さ、る、と、さ、る、



大入大入。美世美世。一一も恨恨下下と。終終。腰腰。き切切。一一本本。小小。織織。生生。捕捕。相相。州州。貞貞。時時。一一奉奉。つ。と。あり。吾吾。も。救救。う。所所。の。瘡瘡。負負。し。ま。い。ど。此此。処処。に。死死。る。ん。ハ。本本。意意。を。了了。す。是是。る。や。一一。條條。の。路路。と。煮煮。り。く。落落。伸伸。と。れ。ど。太太。股股。は。く。辟辟。力力。を。失失。つ。て。終終。つ。破破。生生。風風。と。る。り。と。既既。に。死死。ま。さ。り。つ。と。漸漸。々々。と。恙恙。なく。病病。ひ。の。愈愈。さ。果果。ね。れ。ど。危危。角角。は。瘡瘡。の。愈愈。さ。を。か。く。瘡瘡。人人。と。り。し。り。世世。小小。立立。交交。る。こ。る。わ。け。山山。里里。へ。引引。籠籠。り。隠隠。れ。忍忍。ぶ。と。其其。後後。ハ。餘餘。黨黨。の。詮詮。美美。士士。も。る。一一。さ。り。な。れ。ど。八八。幡幡。殿殿。に。賜賜。り。し。り。十十。町町。餘餘。歩歩。の。地地。と。喪喪。ひ。ハ。此此。時時。有有。り。一一。り。る。き。人人。の。企企。は。共共。せ。し。の。ま。し。代代。の。家家。祿祿。と。り。し。る。ハ。此此。體體。で。傷傷。わ。て。瘡瘡。人人。と。る。り。と。今今。に。於於。く。時時。と。嚙嚙。腸腸。と。断断。悔悔。る。れ。ど。ま。い。如何如何。と。も。詮詮。方方。る。一一。と。ま。い。し。り。

后后。の。ま。い。さ。ふ。世世。小小。立立。交交。り。ぬ。恥恥。と。あり。ぬ。ま。い。僧僧。と。も。あ。る。ぐ。思思。ひ。し。り。と。後後。あ。り。て。り。て。不不。孝孝。と。ま。い。と。脱脱。れ。聖聖。者者。の。教教。誡誡。わ。り。身身。と。傷傷。れ。し。り。と。不不。孝孝。と。ま。い。ぬ。家家。と。あり。て。祖祖。先先。の。血血。脈脈。絶絶。さ。り。その。鼻鼻。滴滴。深深。か。う。ん。と。思思。惟惟。一一。と。ま。い。ぬ。塾塾。居居。一一。と。ま。い。ぬ。身身。と。設設。け。し。り。と。然然。る。に。你你。吾吾。ら。か。り。て。先先。祖祖。の。家家。名名。と。身身。一一。号号。と。ま。い。ぬ。此此。家家。ハ。什什。代代。の。三三。品品。わ。り。今今。こ。ま。い。と。ま。い。ぬ。讓讓。り。し。り。の。巻巻。物物。ハ。家家。の。助助。目目。其其。外外。祖祖。父父。の。子子。孫孫。之之。遺遺。す。教教。倫倫。の。文文。わ。り。ま。い。ぬ。頃頃。一一。と。ま。い。ぬ。年年。未未。往往。て。学学。問問。長長。と。且且。学学。校校。を。退退。の。砌砌。ふ。い。り。て。是是。を。披披。く。ハ。恥恥。小小。大大。と。ま。い。ぬ。益益。所所。と。ま。い。ぬ。一一。と。ま。い。ぬ。言言。と。用用。ひ。し。り。今今。こ。ま。い。と。ま。い。ぬ。一一。と。ま。い。ぬ。却却。て。你你。が。害害。と。あ。る。一一。と。ま。い。ぬ。本本。姓姓。の。内内。海海。の。の。ら。後後。と。塾塾。居居。の。后后。ハ。如如。此此。名名。乗乗。て。二二。十十。余余。年年。と。経経。よ。り。し。其其。本本。姓姓。の。自自。ら。

主主。一一。ノ。傳傳。ハ。一一。

十一





金澤  
學校  
之  
古  
名  
寺  
圖

頭時

鵬太郎

















せんりともひよふとと雲時きりぐるむらり吉いさきんたふむい及あふ。  
いとあぢくくもひとりの明あの日の朝あまふたよあ蒙作あ漢子あと相あ  
俱あふ。常陸あとさうて赴あきさる

柱石傳 初輯 卷第一終



